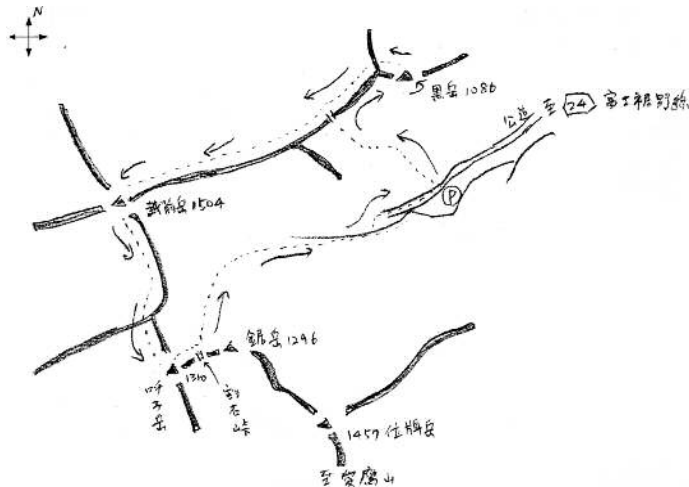


越前岳

春の朝日を浴びる富士山を見たかっただけに・・・

2017 年 4 月 2 日

L: 齋藤



アクセス

R469 富士サファリパークから東に 2km、愛鷹山登山口バス停を西に。駐車場数十台駐車可。仮設トイレ 1 基あり。

4 月 2 日 (日)

年末年始も仕事に追われ、まだ年が変わった感覚がない。新年度を迎え、朝日を浴びる富士山を見ることは、気持ちの切り替えだけでなく、なんとなく縁起も良さそう、という期待を込めて越前岳登山を計画した。

前日の 23 時頃登山口駐車場着。場内はうっすらと雪が積もっていた。朝日を見るのであれば、4 時頃から登る必要があったが、あいにくの曇り空。展望は期待

できそうに無いので出発を 5 時半に変更。暗闇で熊と遭遇したら怖いし。(まだ寝ている時期かな?)



広々とした神社の駐車場

今シーズンは股までの雪を存分に楽しんだので、今回はまったりと気楽な登山をするつもりだったが、出だしからどう

も雪が多い。「山頂で 10cm 程度だろう」と勝手な思い込みをしていたので、雪山装備は軽アイゼンしか持っていない。

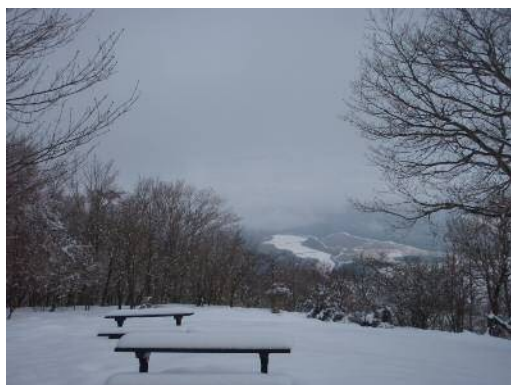
出発から数十分。まずは軽アイゼン装着。今シーズンの登山経験で、アイゼンはさっさと履いた方が時間的にも体力的にも楽なことを学んだからだ。だんだんと雪が深くなってきたので、次は夏用スパッツを装着。なんだか、昨年秋に経験した寒波の大川入山を思い出す。

黒岳に続く峠の手前にある「あしたか山荘」に着く頃には、雪はすっかり膝下。



無人の山荘。門扉は必要なんでしょうか？

峠を越え、黒岳へ。本来ならば「富士山ドーンッ！」のはずだけに残念。



黒岳山頂。この方向に富士山が見えるはず

展望はないし、腰を下ろして休憩するわけにもいけないので、そのまま峠まで戻り、続いて越前岳を目指す。

山頂まで標高を 500m ほど上げる行程だ。低山とはいえ、樹林の中ならば現時点よりも雪が深くなるのは明らかだ。比較的新しいトレースが残っているものの、本日の一番乗りは自分。この道で合っているのか、と不安に思いながら足を進める。



掻き分けるところや



なんだか分かりにくいところばかり

この行程は登り一辺倒で、予想通り雪は深くなり、結局、深い所は股まで埋まった。笹や木々を掻き分けているうちに、手袋やウェアが濡れてくる。トレッキング

グパンツも湿ってくる。ザックから染み出た水が滴り、パンツがびしょりで気持ち悪い。最初から合羽を着れば良かった。と猛省した。またひとつ勉強になった。合羽は今更着ても手遅れなのでそのまま進んだ。

雪が深くなると時間がかかる。今回はこんなつもりじゃなかったの、トレーニングを兼ねて、歩荷水 11kg を含めた計 20kg オーバーのザックで登っていた。水を捨てれば軽くなるけれど、それは限界近いとき。まだ捨てるときじゃない。時間もかかるし肩も痛い。「これって苦行じゃん」って一度思ったら、足が止まるたびに「苦行じゃん」って言葉が再び頭に浮かんで滅入る。



今回も股ですか・・・

10 時前に富士見台に到着。看板曰く、ここからあと 500m で山頂らしい。復路を考慮すると、往路は 10 時リミットと決めていたが、もう少し登ってみよう。100～200m ほど歩いて、考える。このペースだと山頂は 11 時頃であろう。そこから呼子岳へは、入り込む人が少ないらしいの

で、雪が深いと時間がかかるかもしれない。このまま決行すると下山が遅くなるな、と判断し、残念ではあるが、ここで折り返すことにした。



富士山が見えない富士見台にて

下山を始めてしばらくすると、やっと人と出会った。聞くと山頂まで向かうそうだが、時間はまだまだかかるし、これから天気も崩れるので気を付けて、と思うばかりであった。

ザックが重く疲れていたの、いつもより時間のかかる下山であった。少しでも荷を軽くしようと「あしたか山荘」でカップラーメンを作ろうとしたが、ノーマルガスだったのでなかなか火が付かない。冷たいけどガス缶を素手で温め、火を付けた。食後、びしょりで冷たい手袋をはめ、濡れたパンツが気持ち悪いなあと思いながら、駐車場まで戻った。

<タイム>

神社 P(5:25)-あしたか山荘(6:23)-富士見峠(6:40)-黒岳(7:08)-富士見峠(7:35)-富士見台(9:53)-折返し(10:06)-神社 P(12:50)

(齋藤 記)